

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770104267		
法人名	社会福祉法人すみれ福祉会		
事業所名	グループホーム花もめん		
所在地	香川県高松市太田下町2020番地1		
自己評価作成日	平成24年6月14日	評価結果市町受理日	平成22年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770104267&SCD=320&PCD=37
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成24年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>特別養護老人ホームに併設しており、4階の地域交流センターでは、ボランティアの方の訪問にて、歌や踊りを楽しまれている。又、地域の方のご協力により、防災訓練やお祭り、運動会等の行事に参加し、地域との交流を図っている。ご家族の面会も多い。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>面会も多く、利用者を中心に、職員・家族がそれぞれの関係を踏まえつつ、自然な人間関係を築いている。また、家族会の創立・運営により、利用者・家族の思いを汲み取り、希望が言える状況作りや法人内の併設施設を活用した地域に密着した実践は、利用者・家族から安心と信頼を得ている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム花もめん(上町)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「どんな時も笑顔で」を理念とし、利用者の方が笑顔で過ごせるにはどうしたらいいか職員全員で話し合いの場を設け、それに向け日々のケアを実践している。	職員は理念を共有し、日々の介護実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園や高校生との交流や、地域の方が併設の地域交流センターでの行事に参加する際に交流している。又、地域の行事は運営推進会議の際、案内して下さり、その都度参加している。	ホームでは地域交流センターを活用し、様々な催しが用意されている。また、地域の行事にも積極的に参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、地域の方を対象に、“高齢者支援推進事業”を開催し、その中で認知症についての話もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告や情報交換を行っており、その情報を活かしたサービスに取り組んでいる。地域の行事の際には、地域の住民の方にボランティアを働きかけ、協力してもらえた。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所から利用者へのサービス内容・活動・行事などを報告し、情報や紹介を受けている。	地域に密着した運営をする上で地域の代表者・有識者や専門家を招いて、情報交換の場だけでなく、参加メンバーが事業所の多彩な取り組みの協力者・モニタリング役として、地域との相互関係が築かれるよう働きかけることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、高松市介護保険課、地域包括支援センター担当者と情報交換を行っている。又、年1回地域包括支援センターの職員が研修会をしてくれている。	主に運営推進会議の機会を捉え情報を得て、対応している。また、地域包括支援センターによる職員研修会を開催し、サービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や研修会に参加し、理解している。利用者の状態変化について、例えば、車椅子を使用する状況になった時にも家族に説明し納得を得るなど、対応には注意を払っている。	勉強会・研修会で身体拘束について学び、正しい知識・理解をもって身体拘束しない介護に取り組んでいる。	

グループホーム花もめん(上町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、虐待防止について学び、理解している。又、日常において利用者のちょっとした変化にも注意するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会の中で制度等の説明を行い、理解の促進と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度面接を行い、十分に説明し話す機会を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年1回家族会を開催し、意見をもらいケアに反映させている。又、面会が多いのでその都度様子等を報告している。行事予定等は掲示板に周知している。	運営推進会議や面会時に話しやすい雰囲気作りをし、意見や要望を聴いている。又、家族会を立ち上げるなど、利用者・家族等の意見を運営に活かせるよう前向きに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回主幹会議が開催され、職員の意見や提案を報告したり改善したりしている。グループホーム内でのミーティングは、月2回全員参加で開催している。	定期的な各種会議・ミーティングが開催されていて、職員も意見を言いやすく、風通しの良い職場作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会、職員会議等を通じ、職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修など、関連する各種研修に参加し、職員一人ひとりの能力向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践リーダー研修において、他施設で実習をし、良い点を学んだ。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活や、他の人と馴染めるよう努めている。又、ゆっくりと話を聴くよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を行い、家族から悩みや不安を聞くようにしている。また、家族の思いを受け止め、利用後も話し合う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、実情や要望をもとに必要な支援を見極めている。また、徐々に馴染んで利用できるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯たたみ、裁縫等の手伝いを一緒にしたり、味噌汁やおやつ作りを一緒にする等、利用者と共に過ごしながら学び合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や、お便り、電話等で状況を報告し、相談し合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が施設内の地域交流センターでの会合時に立ち寄ってくれている。地域のお祭りに参加し、近所の人が声をかけてくれている。又、家族の協力により行きつけの食堂や美容院、スーパー等に行けるよう支援している。	法人内のイベントや地域の行事に参加したりして、地域社会とのかかわりを継続させるための支援を、家族の協力も得ながら積極的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の方々を観察し、職員全員で情報交換し、食事の席の変更や役割分担等、孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、併設施設内を利用している時は面会に行ったり、家族と話をしたりしている。病院へ入院した場合も面会に行き経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の順番の希望や嗜好調査等、入居者の思いや希望の把握に努めている。訴えのできない方にはこれまでの生活を家族から聞き、本人の思いが叶えられるようにしている。日々の会話や関わりを大切にしている。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めているが、利用者の重度化から把握困難な方は、家族の協力を得て、本人の思いや意向の情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントや日々の関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で入居者の暮らしの流れや役割、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者が事前に本人・家族に意見や要望を聞き、本人がより良く暮らせる視点で職員全員で話し合っ介護計画を立てている。ミーティングは月2回全員で行っている。	担当者制であるが、主に管理者・ケアマネージャーが、モニタリング・介護計画を作成しケース会議で話し合っている。利用者・利用者家族のご意見・要望は面会時に聴取し計画に反映している。	利用者担当者制が行われており、担当者制を活かした、家族・利用者の意向がよりよく反映される介護計画の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、午前・午後・夕食後・夜間に分けて記録しケアチェックを行っている。又、変化や気づきがあれば申し送り表に書き、職員間で情報を共有している。		

グループホーム花もめん(上町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態に合わせて、併設施設の特浴を使用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り)等に参加し、地域の方のボランティアを受けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望に沿っている。通院時は家族との情報交換も行っている。認知症専門医による訪問診療もあり、相談支援が受けられている。	かかりつけ医は本人・家族の希望に沿って受診できるよう、家族と協力し、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職が毎日ホームに来てくれており、状態を報告する等、常に状態を把握し適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に面会し、病院関係者や家族と話し合っている。又、退院時は理学療法士よりリハビリや移乗等の話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議でも安らかな死や看取りについて家族の意見も出されている。看取り希望をされている利用者もいる。	看取りを希望される利用者・家族の要望に沿える体制が整っており、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての内部研修を行ったり、マニュアルを作成し、他の部署との連携を取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は施設全体で年2～3回実施している。消防署の協力を得て、災害発生を想定して避難誘導や消火器の使い方の訓練をしている。又、地域の防災訓練にも参加している。	併設の特別養護老人ホームと合同で夜間想定防火訓練を行っている。地域の避難所として非常食の備蓄がある。また、地域の防災訓練にも参加している。	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域の方に事業所の災害対策に関する理解を求め、協力体制を得ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は「人生の先輩」という意識を持ち、プライバシーを傷つけるような言葉かけや態度ではなく、優しいトーンで声かけをしている。	職員は利用者にさりげなく声かけし、「人生の先輩」という意識を持ち、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と少しでも多く関わり、馴染みが深くなることで本人が思いや希望を表わせるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせたケアができるように希望を聞くだけでなく、入浴やリハビリ等利用者自らが希望を言えるよう工夫し、その声に最大限応えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	QC活動として「身だしなみ」をテーマに活動した。現在も継続している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房で出来上がった食事を器に盛りつけたり、片付けなどを利用者の状況に合わせて行っている。また月1回のおやつ作りは利用者とは何を作るか決め、週2回程度ご飯・みそ汁作りを職員と一緒にしている。	食事は併設施設の厨房で調理されているが、盛り付け・後片付けは、利用者と共にしている。選択メニュー・月1回のおやつ作りなど食事への関心を引き起こすための工夫が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員がほぼ全量摂取されている。又、水分も1日1500cc摂取されている。水分はその都度希望を聞き作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。必要に応じてスポンジブラシにて介助をしている。義歯は每晚入れ歯洗浄剤にて洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄記録をつけ、その人の排泄の間隔や、そわそわする等の癖を考慮し、個々にトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を大切に、一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼夜それぞれにオムツ類・尿とりパッドを選択する細かな配慮・前誘導・見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給を実施している。又、トイレ誘導時の腹部マッサージや適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を聞き、マンツーマンでゆっくり入浴できるようにしている。又、暑い季節や排便が失敗した時は清拭やシャワー浴等の工夫をしている。車椅子利用者の入浴は職員2名で介助している。又、フットバスで足浴をしたり、利用者に合わせて浴槽台を使用している。	利用者の体調・希望に合わせて週2回を基準に、同性介助でマンツーマンによる入浴介助をしている。併設施設には機械浴槽もあり、状態に合わせて支援されている。また、部分清拭・フットバス・シャワー浴などの清潔介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切に支援している。一人ひとりの希望に沿って臥床時間を支援している。不眠がある時は眠くなるまで職員と一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は受け取った時と飲む時に確認している。目的や副作用、用法、用量については職員誰でも見れるようファイルを作成し管理している。		

グループホーム花もめん(上町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや食器洗い、床掃き等、一人ひとりにあった役割分担をしている。日曜日は皆で掃除やシーツ交換等、利用者の状況に合わせてしている。週1回近所のパン屋、月1回の移動売店にて好きなものを選んでる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭に散歩に行ったり、地域の行事や近所のスーパーに買い物に行っている。又、ご家族の協力により外出されている。	事業所内の中庭を散歩したり、毎日曜日の朝の散歩が計画されている。又、行事や遠出も計画されていて、家族の協力を得ながら希望にそった支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際は、出来る人にはレジで支払いをしてもらっている。また、お参りではお賽銭を上げられている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1F事務所内に郵便ポストを設置しており、自由に手紙が送れている。1階の公衆電話をかける時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は民家風の造りにしてあり、天井も高く窓から程よく光が入っている。適度の静けさが保たれている。	共用のスペースは、採光や静けさ、空調に配慮がみられ、清潔に保たれていて、快適な空間作りがされている。また、対面式キッチンで、リビングには新聞が置かれ、金魚が飼われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テーブル、ベンチ等で入居者同士が思い思いに過ごしている。また、仲の良い人の居室で過ごされている時もある。		

グループホーム花もめん(上町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けで、それぞれの好みで馴染みの物を持ち込んで、その人らしい居室になっている。	居室は清潔に保たれ、ベッドや収納家具が用意されている。馴染みの物を用いて居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、ホール、廊下に手すりを設置している。又、トイレの場所がわかるように表示している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「どんな時も笑顔で」を理念とし、利用者の方が笑顔で過ごせるにはどうしたらいいか職員全員で話し合いの場を設け、それに向け日々のケアを実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアグループや保育園児、高校生が併設の地域交流センターに来荘し、交流している。地域の祭りにも参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回地域の方を対象に、“高齢者支援推進事業”を開催し、認知症や介護について話をしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、業務報告や情報交換を行ってサービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、高松市介護保険課、地域包括支援センター担当者と情報交換を行っている。年1回地域包括支援センターの職員が研修会をしてくれている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や研修会に参加し、理解している。利用者の状態変化について、例えば、車椅子を使用する状況になった時にも家族に説明したり、入口や居室には鍵をかけず職員の見守りで対応している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、虐待防止について学び、対応には細心の注意を払っている。

グループホーム花もめん(下町)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会の中で制度等の説明を行い、理解の促進と活用に努めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度面接を行い、重要事項説明書にて説明し、話し合っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者が2ヶ月に1回手紙を郵送している。家族が面会時に話しやすい雰囲気を作り、意見や要望を話し合っている。10月には家族会を開催している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の主幹会議と勉強会、職員会後に認知症ケア会議を行い、情報交換をしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会、職員会議等を通じ、職員の勤務状況の把握に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連する各種研修に参加し、職員一人ひとりの能力向上を図っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業者とは交流しているが、他のサービス事業者とも今後は交流していきたい。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には他の人へ紹介したり、馴染むまで頻繁に話を聞くようにしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学を行い、雰囲気を見ていただいている。その際にご家族の要望や不安なことなどを話し合っている。。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、実情や要望をもとに必要な支援を話し合った上でサービスを見極めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯たたみ、味噌汁やおやつ作りを一緒にすることで、共に過ごしながら学び合う関係を築いている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や、お便り、電話等で状況を報告し、相談し合える関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が併設の地域交流センターでの会合時に寄ってくれている。又、地域の行事の際には知人の方と会ったり、家族の協力により外出している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員や入居者間で話し合って役割分担している。作業中もコミュニケーションを取りながら暮らしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設へ移った際も面会に行っている。入院した場合も面会に行き経過を見守っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で一人ひとりに思いや意向を聞いている。訴えのできない方には家族から聞いている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントや日々の関わりの中で把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの暮らしの流れに合わせ、役割や心身状態の把握に努め支援している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者が事前に本人・家族に意見や要望を聞き、ケース会議時に話し合っ介護計画を立てている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気付いたことや、実施してみたの結果などを連絡簿に書き込んでもらい、情報を共有している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の知り合いに会いに行ったり、移動売店や地域交流センターの交流事業に参加している。身体状況に合わせて併設施設の機械浴槽も使用している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事でボランティアの人の手助けを借りながら交流している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望に沿っている。通院時は家族や看護師と情報交換している。認知症専門医による訪問診療もあり、相談支援を受けている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職に状態を報告し、かかりつけ医や協力医療機関への受診をしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には面会し、病院関係者や家族と話し合っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で終末期を迎えたいという希望もあり、既に看取りの経験も経ている。重度化した場合には早い段階で代表者も交えて家族、医療機関、看護師と話し合っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての内部研修を行ったり、マニュアルを作成し、他の部署との連携を取れるようにしている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は施設全体で年2～3回実施している。地域の防災訓練にも参加し、消防署の協力を得ながら訓練している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保のため居室に入る際にはノックをしている。言葉かけについては傷つけないよう優しいトーンで対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望や好みを引き出し信頼関係を築き、自分で決められるように支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調にも考慮し、入浴やリハビリ、レクリエーションなど、利用者が希望を言えるようにしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に、自分で選べる方には洋服を選んでもらったり、家族の協力を得ながら身だしなみやおしゃれをしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房で出来上がった食事を利用者の状況に合わせて盛り付けをしている。また月1回のおやつ作りは本を広げて利用者とは何を作るか決めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を行い、栄養士が献立を決めている。又、選択メニューの日を設け、好みが反映できるようにしている。摂取状態が悪くなればすぐに食事形態を変更できるようにしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。義歯は毎日夕食後に洗浄・消毒している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、自立へ向けて声かけ、誘導、見守りを行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導時に腹部マッサージをしている。又、排便しやすいようにコーヒーやヨーグルトなどでその人に合ったものを摂取している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に沿って入浴時間を決めている。車椅子利用者は職員2名で入浴介助している。又、併設施設には機械浴槽もあり、状態に合わせて使用している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切に支援している。希望に沿って臥床、離床し、不眠の時は職員と一緒に過ごしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は誤薬しないよう、受け取った時と飲む時に必ず確認している。目的や副作用、用法、用量についてのファイルを作成し、職員誰でも見れるようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の役割として、洗濯たたみや食器洗い、掃除をしている。又、月1回の移動売店で好みのお菓子や漬物を買ったり、週1回の地域のパン屋の訪問販売で買ったりしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力で外泊や外出をしている。又、近所のスーパーで買い物をしたり、事業所の庭などで散歩をしている。

グループホーム花もめん(下町)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーへ買い物に行った時に支払をしている。また、お賽銭を持ってお参りに行ったり、ご家族と一緒に買い物へ出かけたりしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階事務所内に郵便ポストを設置しており、自由に手紙が送れている。電話をしたい時は1階の公衆電話を使っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール中央吹き抜けから自然光を取り入れ、程よい明るさを確保している。全体的に民家風の造りにしており、ゆったりと過ごしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テーブル、ベンチ等で入居者同士が思い思いに過ごしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みにより居室に畳を持ち込んだり、昔から使っていた物、使いなれた物を持ち込み、その人らしい居室になっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、ホール、廊下に手すりを設置している。浴室内には滑り止めマットを使用している。又、トイレの場所がわかるように表示している。